

# スマート農業に関する 総務省の取組

新藤総務大臣提出資料  
平成26年4月16日

# 農業の生産性向上(平成25年度補正予算) ①「匠の技」とも言える熟練農家のノウハウの継承

日本再興戦略(平成25年6月14日閣議決定)(抜粋)

- 高い生産技術を持つ篤農家の知恵を人材育成や収益向上等、多面的に利活用する新たな生産方式の構築を2016年までに達成。

## 1 現状と課題

各国の経営規模の比較

	日本	オランダ	イギリス	アメリカ	オーストラリア
農地面積	456万ha	190万ha	1,733万ha	40,345万ha	40,903万ha
平均経営面積	2.27ha	25.9ha	78.6ha	169.6ha	2970.4ha

出典:農林水産省「農業構造動態調査」,  
「耕地及び作付面積統計」、USDA/NASS資料、  
EU 農業センサス2010(速報値)、Australian Commodity Statistics、FAOSTAT

各国の生産比較(トマト)(2011年)

	日本 (38位)	オランダ (1位)	ベルギー (2位)	イギリス (3位)	アイルランド (4位)
農地面積	12,000ha	1,702ha	474ha	216ha	32ha
収穫量	703,100t	815,000t	218,435t	89,800t	13,221t
農地面積当たり 収穫量	59t/ha	479t/ha	461t/ha	416t/ha	413t/ha

出典:国連食料農業機関統計(2011年実績)から総務省作成

規模の小ささが課題

農地面積当たりの生産性の低さが課題

## 2 総務省の取組

「匠の技」

- ① 温度、湿度、CO2濃度等の自動管理
- ② 時期ごとの農作業の工程管理
- ③ これらにモバイル技術も活用



農業クラウド

- ・データベース構築
- ・ビッグデータ解析

農地モニタリング  
アプリケーションソフト

熟練農家の匠の  
技を反映した  
アプリケーションソフト

農林水産省  
と連携

センサーによるモニタリング  
(例:照度、気温、湿度、土壌水分等)

「匠の技」の  
活用



「匠の技」を広く普及させることで、日本再興戦略の目標達成に貢献。

# 農業の生産性向上(平成25年度補正予算) ②農産物の生産から流通までのトレーサビリティシステム

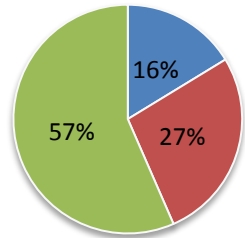
日本再興戦略(平成25年6月14日閣議決定)(抜粋)

- 農場から食卓までをデータでつなぐトレーサビリティ・システムの普及によるバリューチェーンの構築に取り組む。

## 1 現状と課題

トレーサビリティ・システム＝生産、加工、物流等情報を消費者にわかりやすく提供するシステム

トレーサビリティ・システムの現状(小売業)



- トレーサビリティにICTを活用
- トレーサビリティにICTを活用していない
- トレーサビリティを行っていない

出典:「平成19年度食品産業動向調査結果」(平成21年4月15日 農林水産省)

- トレーサビリティ・システムを導入していない小売事業者: 57%
- うち、未導入の理由として、
  - 導入・運用のコストが高い: 約41%
  - 導入する方法がわからない: 約39%
  - 仕入れ先、取引先や消費者からの要請がないこと: 約38%
  - 相互接続性やデータフォーマットが標準化されていないこと: 約20%と回答(複数回答)。

トレーサビリティ・システムの標準化を推進することで、標準化による導入・運用の簡易化、コストの削減を図り、システム導入を促進

## 2 総務省の取組

